



tasar

Japan Tasar Assocation
<http://www.tasarjapan.org/>

101

Tasar News Letter
Vol.101
Sep. 2016



1986年7月19日（日本テアー協会設立） → → 30年を経て2016年6月18日

CONTENTS

プレワールドで見えてきたこと	1
2016 年度上期活動報告・スケジュール	2
ワールド準備状況のご報告	3
日本テザー協会 2016 年度年次総会のご案内	5
メジャー通信	5
特集 1 : JTA 設立 30 周年記念パーティー	7
（寄稿）JTA 設立 30 周年を迎えて ～テザーとの出会いを振り返る	11
Tasar Sailor of the Year 2015	12
特集 2 : 2016 Pre- Worlds	13
2016 年度上期レースレポート、成績一覧（巻末添付）	22
レース公示（オータムレガッタ、第 31 回前日本選手権）	（別添）

プレワールドで見えてきたこと

会長 田中 郁也

来年の蒲郡ワールドのテストイベントとして行ったプレワールドが終了しました。海上では精度の高いレース運営のもとで、2日間で5レースが実施されました。今号には、愛知県ヨット連盟の岡田彰インターナショナル・レースオフィサーのレポートを掲載していますのでご覧ください。陸上では受付、計測のほか、プロテストや問合せ等への対応、各種行事の進行などが発生しましたが、体制が手薄で、対応してくれたスタッフに大きな負担がかかりました。来年のワールドでは相応の体制を組む必要があると考えています。

大会終了後にアンケートを実施し、多くのご意見をいただきました。どれも参考になるものでした。これまでの準備委員会のがんばりで大会の骨格は整いつつあります。これから大会までは骨格に肉付けをしていく作業が必要です。この段階でいただいたご意見を、どのように反映できるか考えていかねばなりません。

一例を申し上げます。洗濯機、ランドリーがないとのご意見がありました。これまでの対応としては、9月上旬にリリースした宿泊案内において、各宿のランドリーの有無やコインランドリーが近傍にあるかどうかを調べ、掲載しました。また、滞在に必要なと考えられる周辺情報の一環としてランドリー等の情報を提供する予定です。

次にこれからの話として、セーリングウェアはどうするか？ハーバーに洗濯機、脱水機があるといいのではというアイデアがあります。雨露をしのげる物干しスペースも。これを実現するには、洗濯機等を調達できるか、費用はいくらかかるかを調べ、ハーバー等に許可してもらえるかを相談する。可能であれば大会予算に計上し、実際に手配することになります。小さなことかもしれませんが、選手や大会関係者の利便性を考え、気持ちよくレガッタを楽しんでもらうために大事なことだと思います。このようなきめの細かな作業には、多くの知恵とマンパワーが必要です。作業にご協力いただけるスタッフ、大会を陸上からサポートしてくれるスタッフを募りますので、ご連絡をお待ちしています。

プレワールドはホストフリーのない蒲郡でののはじめての本格的なレガッタで、JTA として大きなチャレンジでした。おおむね順調にイベントをこなせたことから、来年の本番に向けて意を強くしています。振り返ると、2009年の和歌山ワールド、そして2013年の秋田男鹿全日本もそうですが、地元の方々との協力関係を築き、大きなイベントを実現してきました。殻にこもらず、為せば成るの精神でレガッタに取り組む、これもテザー・スピリッツの一つかなと感じています。

活動報告

協会公式イベント

2016 年度上期（4 月～8 月）は、下記の公式イベントを実施しました。

JTA 公式レース

- ・ スプリングレガッタ （葉山 / 2016 年 4 月 23-24 日 / 参加 28 艇） 優勝 佐藤 / 村岸組
- ・ 西日本選手権 （芦屋 / 2016 年 7 月 10 日 / 参加 15 艇） 優勝 本吉 / 安澤組
- ・ 2016 Tasar Pre-Worlds （蒲郡 / 2016 年 7 月 22 日-24 日 参加 35 艇） 優勝 池田(陽) / 鷲尾組
- ・ ミッドサマーレガッタ （猪苗代湖 / 2016 年 8 月 28-29 日 / 参加 7 艇） 優勝 池田(陽) / 須山組

練習会

- ・ 第 1 回練習会 （芦屋 / 2016 年 7 月 9 日）

日本テザー協会設立 30 周年記念パーティー 6 月 18 日（土） 於）横浜国際ホテル

また、下記オープンヨットレースを紹介しました。

- ・ 海陽セーリングカップ（蒲郡 / 2016 年 7 月 16-18 日 / 9 艇） テーザークラス優勝 渡邊 / 中島組

2016 年度スケジュール

日 程	イベント名	場 所	備 考
4/23(土)～4/24(日)	スプリングレガッタ ★	葉山	
7/10(日)	西日本選手権 ★	芦屋	9(土)練習会開催
7/16(土)～18(月・祝)	海陽セーリングカップ	蒲郡	オープンヨットレース
8/27(日)～28(日)	ミッドサマーレガッタ ★	猪苗代湖	
9/25(日)	オータムレガッタ ★	稲毛	24(土)練習会開催予定
10/8(土)～10(月)	全日本選手権 ★	和歌山	
2017/3/12(日)	ミッドウィンターレガッタ ★	江ノ島	11(土)練習会開催予定

★ : Tasar Sailor of the Year の算定対象レガッタです

ワールド開催（2017年7月30日～8月6日）まで1年を切り、準備が本格化してきています。ワールド準備委員会では各業務をグループで担当しています。以下、2017年蒲郡ワールドの準備状況を報告します。

1. プレワールド開催

2016年7月22日～24日にワールド開催地の豊田自動織機海陽ヨットハーバーにてプレワールドを開催いたしました。これまでもワールド開催前年には主として海上運営のテストイベントとしてプレワールドを開催してきましたが、今回は国内艇31艇にオーストラリアチーム3艇・オランダ日本混合チーム1艇を加えた35艇（海外選手7名）でインターナショナルなムードいっぱいのプレワールドとなりました。ワールド広報担当グループ（石丸・池田・岡・金子）はバルクヘッドマガジンに取材を依頼し¹⁾、JTAウェブサイトにはレース結果に加えて大会の様子が分かるレポートや写真をアップしています²⁾。



海上運営は岡田 彰 IRO が率いる愛知県ヨット連盟のみなさん（日本でも指折りの高い運営技術力を持つチーム）に実施していただきました。準備過程では田中会長およびレースプランニンググループ（軽部（竜）、山村、池田）が愛知県連白川理事長、岡田レース委員長と綿密な打合せを重ね、その結果「これまで経験した中でもっとも洗練されたレース運営だった」と国内外の選手から称されるレースが実現され、来年のワールド本番は安心してお任せできることが確認されました。

豊田自動織機海陽ヨットハーバー付近は宿が少ないことから、宿泊担当グループ（軽部（香）、平田、田中（郁））は蒲郡市観光協会及び三谷温泉旅館振興協同組合のご協力を得て、5つの旅館の宿泊を統一価格で斡旋し、海外選手を含む37名が12部屋を利用しました。このJTAによる宿斡旋は、ワールド本番でも実施の予定です。

今大会は海外選手の参加により盛り上がりましたが、チャーター艇担当グループ（関口、平田、三輪）が中心となり艇オーナーのご協力を受け4艇のチャーター艇を用意し、また海外選手対応グループ（井上、宮下（久））がきめ細かい事前やり取りと滞在中の対応を実施し、海外選手から高い評価をいただきました。一部で残った課題には今度対応していく予定です。

レガッタ終了後、日本人参加選手にはアンケートを依頼し、26件の回答を得ました。来年に向けて良かった点・改善すべき点を集約し、この結果はそれぞれの担当グループで来年に向けてブラッシュアップしていくこととなります。

- 1) 7/26 求む、初日本人チャンプ！来年7月テザー世界選手権を控えてプレワールド開催
- 2) <http://tasarjapan.org/index.php/events/reports/155-preworlds2016-results>
<http://tasarjapan.org/index.php/events/reports/157-preworlds2016-reports>

2. 大会ウェブサイトのリニューアルオープン

プレワールド開催後の7月31日に、大会ウェブサイト³⁾をリニューアルオープンさせました。このサイトは国内外に向けたワールドに関する情報の発信拠点となります。2011年のワールドチャンピオンであり、プレワールドで総合3位、SGMクラス優勝のリッジウェイ夫妻によるレポート⁴⁾も掲載しています。

- 3) <http://tasarworlds2017.org/>
- 4) <http://tasarworlds2017.org/archives/336>

3. 海外からの参加見込み

現時点で、既に多くの海外セーラーからワールド参加に関する照会を受けています。

オーストラリアからは4コンテナ（約40艇）の参加を計画しているとの連絡があり、コンテナ対応グループ（宮下（知）、石塚）にて今後調整されていく予定です。

ニュージーランド・オランダ・イギリスからはチャーター艇の問い合わせを受けています。海外選手向けに何艇のチャーター艇を用意できるか次第ですが、過去3回の日本ワールドを大きく上回る50艇前後の海外チーム参加を見込んでいます。

4. 具体的な準備状況（2016年9月20日現在）

- ① レース公示
レースプランニングGで準備中。近日中に大会ウェブサイトにて公開予定。
- ② 広報活動
広報Gにてウェブサイト随時更新中。
パンフレット・横断幕の制作や大会プレスに関する計画も準備中。
- ③ 宿斡旋
宿泊Gで準備中。プレワールドで部屋を提供いただいた三谷温泉の旅館のほか、オレンジペンション、蒲郡ホテル、HOTEL AZ 愛知蒲郡、蒲郡クラシックホテルを対象に本年9月20日より大会ウェブサイトを通じて宿泊申込の受付を開始予定。
- ④ チャーター艇
チャーターG主導で候補艇を募集中。艇状態チェックや整備に関するスタッフも追加募集中。
- ⑤ 協賛（スポンサー）募集
協賛対応グループ（野口、石原、桜井）で準備中。これまでに愛知県・蒲郡市や、地元関係者（蒲郡商工会議所、蒲郡市観光協会）等への協力依頼を実施。
協賛の心当たりがある方は資料を送付させていただきますので、ご連絡をお願いします。
- ⑥ グッズ企画・販売
グッズ企画グループ（野口、亀山）で準備中。これまでも大会告知Tシャツの企画・販売を実施。今後はPSJ協賛MUSTO ロングスリーブシャツ&Tシャツの企画販売を予定しており、デザインを公募した上で来年1月に販売開始予定。参加賞も手掛ける予定。
- ⑦ イベント（各種パーティー、レイデイ）
各イベントをフリート単位で担当していただく予定。表彰式の会場は蒲郡クラシックホテル内バンケットホールに決定済み。
- ⑧ 選手サポート
広報Gと海外選手対応Gで準備中。大会ウェブサイトを通じて海外選手向けの情報提供を実施しつつ、現地でのサポートを企画します。協力スタッフを募集中。
- ⑨ 受付・陸上本部
プレワールドの経験を活かして準備予定。協力スタッフを募集中。
- ⑩ 会計
田中会長・会計（池田）で準備中。公式レースのエントリーフィーに上乗せしているワールド準備金を有効活用し、JSAFを通じたスポーツ振興補助金（補助対象の最大2/3が補助される）も利用する予定。協賛（スポンサー）が順調に集まれば、大会の魅力を充実させるプラスアルファが実施し易くなる。

5. 準備委員会メンバーの募集

ワールド準備委員会では、準備委員会のメンバーを募集しています。特にチャーター担当G、受付/陸上本部（立ち上げから）は大募集中です。また、大会期間中の陸上スタッフ・広報スタッフ・通訳スタッフも、テザーセーラーのご家族・ご友人のボランティアに期待しています！！
メンバー参加希望の方は japanworld@tasarjapan.org までご連絡ください。

日本テザー協会 2016 年度年次総会のご案内

本年度の年次総会を下記の要領にて開催しますのでご出席願います。出席できない場合は、必ず添付の委任状を 2016 年 9 月 30 日までにご提出頂きますようご協力お願い申し上げます。尚、会員以外の方でも本総会を傍聴することができます。

また、その他に総会で審議する議案をお持ちの方は、議案書を日本テザー協会理事会に 2016 年 9 月 16 日までにご提出願います。議案提出につきましては、ワード文書にて、末尾の国内事務局宛メールアドレスまで送信してください。議案受領後、理事会よりご連絡申し上げますので、住所・氏名・電話番号・メールアドレスは、必ずご記載ください。

記

開催予定

- ・ 日時： 10 月 8 日 16：30～（予定）
- ・ 場所： 和歌山セーリングセンター会議室（詳細は現地にて案内）

報告事項

- 1： 活動報告
- 2： 次年度活動予定
- 3： 会計報告（前年度決算報告/今年度中間報告/ワールド会計状況報告）
- 4： ワールド準備状況報告

審議事項

- 第 1 号議案：次年度予算案
- 第 2 号議案：その他
- 協議事項 未定

以上

本件に関する問い合わせ先：事務局 植田泰平 jta-information@tasarjapan

メジャー通信

JTA メジャー 軽部 竜也

❖テザーの艦装品について注意点

先日のプレワールドでは蒲郡に 35 艇が集まりました。常連の人たち以外にも、久しぶりに復活した人や、ワールドに向けて新たに参入した人などおいて、少しずつワールドに向けて広まっているのを感じる機会になりました。

ところで大会が始まる前にいくつかの艇を見ていて気付いたのですが、トラベラーのカムクリートにアイを付けているのを見かけました。トラベラーロープは通常はスウォート上のブロックを通った後はそのままになっていますが、これらの艇ではデッキ上のカムクリートにリードされています。オーナーの方には伝えたのですが、ここにアイを付けることはテザーではクラスルール通りとは言えません（ちなみにレースまでには外していただきました）。おそらく昔のオーナーが付けていたのを中古で購入した、というケースだと思いますが、テザーは新艇の時に最初から装備されていたもの以外を追加することは基本的にダメです。私が把握している限り、ここにアイを付けるというのはテザーの標準艦装ではないはずです。

このアイの他にも、もしかすると人から譲り受けたテザーには、思いもよらずクラスルール違反の艦装が混じっていることもあるかもしれません。周りの船と見比べて何か違うと感じたら、ぜひメジャーに問い合わせしてみてください。

テザーの艦装品は、ビルダーによって供給され、かつクラス協会に認められた部品を使うことが基本です。その基本姿勢はクラスルールの A 1「クラス規則のステータス」に書かれています。ただし例外はあって、追加したり交換したりして良い部品もあります。それらもクラスルールに書かれています。しかし逆に言うと、クラスルールで明記されたこと以外はやってはいけないのです。時々「これを付けても速くなるわけではないんだから、構わないんじゃないの?」と言われることもあるのですが、そういう問題ではないのです。メジャーをやっていると、いつも「それはダメです」としか言っていないような気がして嫌になりますが仕方ないのです。はっきりと「OK」と書かれたこと以外はすべてダメ、というのがテザーのクラスルールです。どうかそここのところをご理解ください。

艀装品のことであれこれと悩むよりも、海上に出てセーリングの腕を磨いた方が良いということです。前述のクラスルールA 1にも「艇ではなく真に乗員の間で競われるようなワンデザインクラスを造り出すことを目指している」と書かれています。

❖新艇の情報

この原稿を書いている時点で（8/25）テーザーの新艇が出荷されたという情報は聞いていませんが、もう間もなく販売されるはず（注）です。

最終的な形はまだ見ていませんが、ハルの建造上の設計には若干の変更があるようです。

以下にデザイナーのジュリアン・ベスウェイトとWTCメンバーのやり取りから得られた情報を紹介します。

ただし、建造にとりかかる直前に交わされていた議論から得た情報なので、最終結論ではありません。また英語のやり取りであることを除いても、話の流れがよく分からない面もありました。そういうわけで、いまひとつ正確性を欠いているかもしれません。あくまで事前に検討されていた情報ということで、参考程度にお考えください。

ニューズレターが発行されるころには、もしかするとPSJから販売開始のアナウンスがあるかもしれません（注）。どんな船に仕上がっているか実際の艇でご確認ください。

- ①工場出荷時点でのベアハルの重量は61kg以上にする（過度の軽量化はしない）。
- ②一部のデッキ等（トップサイド、フォアデッキ、アフトデッキ、フォアフット）のフォーム材を薄くし、重量が少なくなった分を他の部分（サイドデッキ、Carlins（?）、コクピットスカート、コクピットフロアコーナー、スウォート）の補強に充てる。
- ③センターケースは垂直型になる。おそらく従来のように前後に振らないような構造になる。29erのフォイルを使えるようにする。ただし従来のテーザーのダガーボードも使用可能。

ちなみに③にあげた29erのフォイルを、実際に使うかどうかについては結論が出ていないようです。現時点では「使用する決定はされていないが、センターケースは受け容れ可能な設計になっている」という認識でいます。

❖サポートロッド（RCB シュラウド艇）について経過報告

昨年（2015年度）のJTA総会ではRCBシュラウドシステムを付けた艇のガンネル裏についているロッドのことが議題にあがりました。（RCBシュラウドシステムとはサイドステイの前後調節用トラックの艀装一式のことです。以前はステンレス製のレールだったところ。）



あらためて概要を説明します。PSJ製のサポートロッド（当初は「バックングプレート」などと呼んでいました）は、現在クラスルールで書かれている長さよりも短いものでした。日本艇でこのシステムを装備している艇は基本的に同じロッドを付けているはず（注）です。

テーザーはビルダーから供給された部品を使うという点では、これらの艇はクラスルールに従っていると言えます。しかし一方では規定の長さよりも短い、という現象がおきています。

こうしたことが起きた背景には、新しい部品を規定するクラスルールが、該当の部品の供給が始まるよりも後から成立したという事情があります。

概要としては以上ですが、次に総会の後の状況を報告します。

クラス協会のチーフメジャーであるマイク・カラス氏に日本の状況を説明しました。

カラス氏の個人的見解として、このような事情でレガッタへの参加が妨げられるべきではない、という回答をもらっています（My personal view is that we should not limit any participation due to a technicality like this.）。

以上はメールでのやり取りですが、何らかの形で公式な見解として発行してもらうことを依頼しており、その了解ももらっています。おそらくWTCA（世界テーザークラス協会）のWebサイト上にアナウンスが載ると思っておりますが、現時点では確認できていません。

これから日本でのワールド開催が控えていますので、日本艇が参加するのに支障がないように進めていきます。

（注）PSJから待望の新艇の情報がリリースされました！既に数艇のオーダーが入っているそうです。ご興味がある方は早めの問い合わせをお勧めします。（9月10日現在）

特集1：日本テザー協会設立 30 周年記念パーティー

6月18日(土)、日本テザー協会の設立30周年を記念する祝賀パーティーが開催されました。小学生から90歳に至るまでの幅広い年齢のテザー愛好者及びその家族が、全国各地から約90名集まり、過去から現在に至るまでのテザー談義に花を咲かせました。



パーティー開始に先立ち、会場のスクリーンでは3枚の写真が紹介されました。1枚目は、舵誌1985年8月号の表紙。「強風ディンギー テザー日本上陸」と書かれています。日本に初めて導入された、2103艇のテストセーリングの記事が掲載された舵誌です。次に紹介された2枚は、1986年7月19日に日本テザー協会が設立した日に撮られたのもので、1枚は豪テザー協会の会長であったRowe氏と吉川さんのツーショット、そして



もう1枚は発足当時のメンバーが、安原さんのお宅だということでしたが、一堂に会した記念すべき写真です。その日から30年。「30年続いてきたのは人とのつながりを大切にしてきたから。そういうクラスであり続けたいと思います。今日はこのつながりを確かめる、あるいはここで新しい出会いもあると思いますが、そういうきっかけの日となれば、うれしいです」と、田中会長から会の始まりが告げられました。

安原さんの音頭で乾杯、そして懐かしい人たちとの歓談の時間が設けられました。ビュッフェ形式のランチと各種飲み物が用意されていました。40分ほど経過したところで、前半のメインイベントとなる、記念表彰が始まりました。テザーの活動拠点である各フリートの立ち上げに尽力された方、およびテザー級の活動や普及に貢献してくださった方、8名が紹介され、記念品が贈られました。素敵なスピーチあり、笑いあり、の表彰式となりました。表彰を受けられたのは以下の方々です。

江ノ島フリート：山分信さん、田口公一さん、稲毛フリート：金子文雄さん、芦屋フリート：安澤厚男さん、大阪北港フリート：稲森久彦さん、浜名湖フリート：長谷川勝啓さん、野比フリート：小澤拓身さん、デ・ラマンチャヨットクラブ：山本晴之さん、パフォーマンスセイルクラフトジャパン(株)(PSJ)：大谷たかをさん

故吉川圭二さんの奥様、清子さんも、ご子息に付き添われて駆けつけてくださいました。1時間ほどの短い時間でしたが、お持ちになったアルバムを広げられ、ゆかりある懐かしい方たちとの再会を楽しまれました。



記念表彰ののち、一度全員で集まって記念撮影。その後、江ノ島フリートの田中義明さんからは、「テザー導入直前」にご本人が見聞きされたトピックスが紹介されました。初代全日本チャンピオンの金井紀彦さん(安原・金井組)からも、ご挨拶をいただきました。また、テザーを始めたばかりの若手代表として、江ノ島フリートの大橋さんが、今後の抱負を語ってくださいました。

後半は、現在のテーザー協会の活動状況の報告、来年開催される蒲郡ワールド準備状況の説明、Tasar of the Year 2015 の表彰式が行われました。ワールドグッズ (Tシャツ) 販売もあり盛況でした。そしていよいよ後半のお楽しみ、PSJ 様から提供された品々を賞品とする、じゃんけん大会の開催です。往年の「じゃんけんおじさん」こと、小澤拓身氏の絶妙な演出はまだまだ健在でした。



楽しい時間はあっという間に過ぎるもの。最後は、葉山リゾート (デ・ラマンチャヨットクラブ) の山本さんによる、締めくくりのスピーチが行われなました。「実は大変なこともたくさんあった」と振り返りつつも、「それも大切な歴史。そしてその過去も大事だけど、次のマークに向かうこと、見えないフィニッシュラインに向かっていくことも大事」との熱い語り。最後は、「(未来に向かって) テーザー行くぞー！」の掛け声に、参加者全員が「おー！」と応え、3時間のパーティーが終了しました。



記念表彰を受けられた方のご紹介（スピーチの一部をご紹介します）

江ノ島フリート 田口公一さん（左）・山分信さん（右）

* 江ノ島フリートの設立、継続的な活動にご尽力されました。



【山分さん】テザーに最初に乗れたのは、吉川さんのおかげなんですね。吉川圭二さんが、ベスウェイトと2人で浮かべたいと、私そこにいましてね、ベスウェイトさんと一緒にのせてもらいました。（中略）最近ね、しみじみ思い出しております。あれから30年でございます。（中略）良い成績はちっとも収めておりませんが、これからも時々、出たいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【田口さん】さっきね、田中（郁也）さんが『自分たちの楽しみのために、みなさんが楽しむために、これからもやっぴいこう』と、「楽しむ」って言葉が言われていたけど、赤いセールがこう並ぶとね、どうしてもね、勝ちたくなっちゃう。楽しむってことは、非常に難しいですね。だれか教えてください。

稲毛フリート 金子文雄さん（るみさん）

* 稲毛フリートの設立にご尽力されました。

また、るみさんとともに、日本での元祖夫婦チームとして、長く活動を続けてこられました。



【金子さん】わたしが最初にテザーを買ったのは90年、それから25年間、テザー中心の生活で、乗っているのが楽しくて、ただ見ているだけでも、近くにあるだけでも楽しくて、寝ても覚めてもテザーのことばかり考える時代がありました。風がふいてくるとそわそわして。（中略）。8回くらいワールド行きましたが、その楽しさ、ウキウキわくわく感は忘れられません。ぜひ皆さんも、来年は蒲郡ワールドですから、日本ならではのワールドを味わっていただければと思います。

芦屋フリート 安澤厚夫さん

* 芦屋フリートの設立、西日本選手権の立ち上げと継続にご尽力されました。



わたしも、さっきご紹介があった85年の舵、あの記事を見て、これからはテザーと思いました。その次の年、大阪のポートショー、ヤナセのブースでこれや、と思い、買いました。（中略）続けております。この前誕生日きたらショックでした。後期高齢者。ま、75歳迎えました、ますます盛り上げていきたいんですけど、これからも、生きてる以上は、酒に酔った、テザーにも酔った、テザーだいすき～！ということで、30周年おめでとうございます。

大阪北港フリート 稲森久彦さん

* 大阪北港フリートの設立、関西でのテザーの普及にご尽力されました

（欠席のため、ご挨拶代読）このたびは、30周年おめでとうございます。テザーに初めて乗ったあの感動は、今でも忘れることはできません。テザー界の益々のご発展を祈念しております。

（三輪さんからお話しでは、娘さんと乗られた時のこと、池田さんと全日本で優勝した時のことなどを、思い起こされるとのことでした。）

浜名湖フリート 長谷川勝啓さん

* 浜名湖フリートの立ち上げ、99年浜名湖ワールド開催にご尽力された浜名湖の皆さんを代表して。



テザー始めたのが、大学4年のたぶん秋だったと思います。サークルでコンナに乗っていたのですが、ある日野比フリートに呼ばれて。 (中略) 野比はとてもアットホームなフリートでして、夜中食事しながら、今年の冬はオーストラリア行くぞ、と、わけもわからずテザーの世界に入った、というのが始まりです。 (中略) 99年に地元浜名湖でワールドと言うことで、水流くんと高校同級生ペアで盛り上げようと言うことで、その時、浜名湖に艇数が増えフリートができた。 (中略) 来年、蒲郡、隣ですので、わたしも、数年ぶりに復活して頑張ろうと思います。

野比フリート 小澤拓身さん

* 野比フリートを設立し、また率いての継続的な活動にご尽力されました。



楽しい思い出をいろいろ作ってくれたテザーに感謝です。 (中略) 30年っていうとね、結構長くて、いろいろありました。先日もいろいろ振り返ってみたんですが、まあ懐かしさでいっぱいですね。 (中略) 非常に熱心な方に支えられてきたクラスなんです。どうしてか、ここにはいるとみなさん、熱心になるという、感化されてしまうという不思議なクラスではないかと思えます。そういう人に支えられて、現在があると思えます。未永く発展することを期待して……。 (野比フリートは2002年まで活動)。

デ・ラマンチャヨットクラブ (葉山フリート) 山本晴之さん

* 第2回から第30回までの全日本選手権に「連続出場」の偉大な記録に敬意を表して



第2回目から連続出場、自分の概算だとその平均成績が8位か9位、28年間全日本出て、シングルっていいですね。それより、ワールドも11回くらい出ていて、そのお金の使い方をほめてもらいたいなあ。全日本連続出場とワールドの参加回数は、僕がこれから出続ける限り誰も追ってこられないので、僕が死ぬまで僕は鉄人でいられるなと思っております。 (中略) (いろんな話題が) 話せばつきないのですが (中略)、未来に向けて頑張っていきましょう。

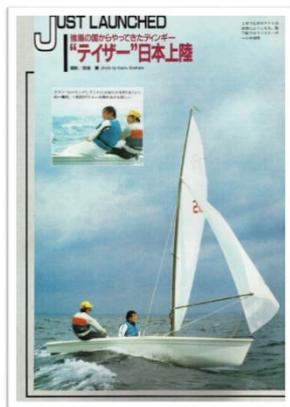
パフォーマンスセイルクラフトジャパン (株) 大谷たかをさん

* 1989年から、日本でのサプライヤーとして、また愛好者の一人として、日本でのテザークラスの普及・発展を支えてくださったことに感謝をこめて



ここに来てほっとしています。みなさん、すごく穏やかな雰囲気、世界、オリンピックを目指す人たちと全然違う (爆笑)。それでも、レースはきちんとやる、こういうのが、セーリングの一番のスピリッツだと思います。フランクさんと吉川さんのおかげで私たちはここにあるんで、……。 (中略) テザーが未永く、ペアでも乗れる、あ、オリンピックもペア化が進んでいるんで、そのうち、オリンピックに誘われたら、「いやいや、テザーは、やっぱり彼氏と乗りたいし、彼女と乗りたいし、テザーはテザーのままで行きましょう」と、言うクラスで、ぜひ、これからも未永く続いて行ってほしいと思います。よろしくお願いたします。

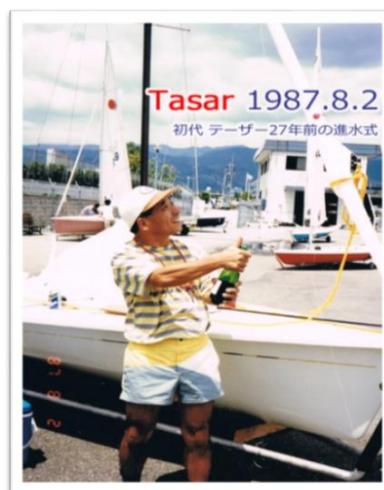
1985 年の「舵」に掲載されたテーザーの記事に興味を持ったのが、テーザーとの出会いであり、そして始まりでした。



1985 年 8 月号には、大谷たかをさんが、設計者のフランク・ベスウェイトにインタビューした記事も掲載されていました。模型飛行機が大好きな少年がオリンピック・コーチになったこと、そしてすべてが計算された未来ディンギー、テーザーを生み出したこと…。実際にテーザーを見る機会は、それから 1 年半ほど後にやってきました。1987 年の大阪ボートショーで、ヤナセのブース（その時はヤナセが輸入元だった）に展示されていました。すぐに注文いたしました。

そして、待ちに待った新艇が、オーストラリアから送られてきました。

なんと！ 段ボールに梱包されていました。ビックリしました！ 日本でしたら木箱で頑丈に梱包されるのではないかと思います…。いやはや、さすがオーストラリア人ですね！！



西日本で初めてのテーザーは、大阪北港フリートの稲森さんのところ。私が 2 番手でした。29 年前に、芦屋・兵庫県立海洋体育館にて進水しました。テーザーの活動をはじめ、そして芦屋フリートもでき、テーザーの仲間が増えました。

仲間が増えてくると、初代会長の吉川さんから、「西日本でもぜひ大会を開催してほしい」との要請がありました。立派なカップも送られてきました。テーザー西日本選手権大会の始まりです。1990 年 7 月に始まった西日本選手権も、今年（2016 年）で第 27 回大会を迎えました。

全日本選手権大会も、芦屋では 1997 年、2004 年、そして 2012 年と、3 回開催いたしました。芦屋での初めての全日本選手権を機に、運営艇（ココキャット）を個人で購入しましたが、このココキャットは、テーザーの西日本選手権や全日本選手権はもちろんのこと、地元の高校生のヨット大会やレーザーの「ジアイカップ」、海体（海陽体育館）レースなどにも、大活躍しています。わたしも、ドライバーとして、また、カメラを担いで頑張っています。

日本では1992年に葉山、1999年に浜名湖、そして2009年に和歌山で、世界選手権（ワールド）が開催されましたが、私もこの3回、すべてに参加いたしました。もちろん、来年、2017年の蒲郡大会にも参加をする予定です。

今年で75才の後期高齢者はまだまだ頑張ります。「Tasar 2670」、これからもよろしくお願ひします。

追伸：初代会長の吉川圭二さんは、日本のテザー生みの親、育ての親であり、本当にお世話になりました。ありがとうございました。



1992年葉山ワールドに参加した芦屋フリート尾崎・天藤組と今井・安澤組 森戸海岸にて



2012年、第27回 テザー全日本選手権大会 芦屋沖、六甲山を背景に

TASAR SAILOR OF THE YEAR 2015

11月の和歌山メモリアルレガッタ終了時点で、上位5名による接戦となっていたタイトル争い。2015年度最後の公式レースであるミッドウィンターで、風邪をひかずに元気にレースに参加した、葉山フリートの中村賢一さんが、2位を大きく引き離して栄えあるタイトルを勝ち取りました。

30周年記念パーティーにてトロフィーが授与されました。皆勤賞は同じく中村さん、そして稲毛フリートの田中郁也さんでした。

*ポイント一覧はニュースレター99号をご覧ください。



求む、初日本人チャンプ！来年7月テザー世界選手権を控えてプレワールド開催



7月23、24日、愛知県・豊田自動車織機 海陽ヨットハーバーで「テザー一級プレ世界選手権」が開催されました。テザーワールドは、2017年7月30日～8月6日に同ハーバーで開催されます。世界選手権の予行を兼ねてプレワールドに35艇がエントリー。オーストラリアから3艇6選手、オランダから1選手が出場し、国際色豊かなプレワールドになりました。

(レポート・写真/BHM編集部)

ワールドまで1年。蒲郡でプレワールドが開催され、海外チームを含む35艇が参加しました。photo by Junichi Hirai

テザー一級は世界でもオーストラリア、日本、イギリス、アメリカ、ヨーロッパに広まる二人乗りディンギーです。五輪種目とは違って、カップル、夫婦、親子で乗る、アットホームな雰囲気の特長で、日本も同様に、レース一辺倒というよりもファンセリングに重点を置いています。

しかし、のんびりした中でもレースはしっかりおこなわれていて、国内大会、全日本選手権、さらに世界選手権まで続く「道のり」が用意されているなどの魅力があります。

テザー一級の世界選手権は2年に一度開催されます。前回ワールドは2015年に西オーストラリア・バッセルトンで開催され、日本から7チームが出場しました(全122艇出場)。日本で世界選手権が開催されるのは、1992年葉山大会、1999年浜名湖大会、2009年和歌山大会に続いて4回目になります。

蒲郡大会に向けて、国内のワールドムードは盛り上がりつつあります。また、オーストラリアからプレ大会に出場するチームがあることから、同国の注目度は高く、すでに運搬コンテナの手配を済ませているチームも多いとか(エントリー開始は2017年1月です)。

2日間おこなわれたプレワールドでは、蒲郡の軽風中心に5レースを実施。2011年のワールドチャンプ、リッジウェイ夫妻(AUS)も出場するなか、稲毛フリートの池田陽平/鷲尾大吾が安定した成績で優勝を決めました。

1981年から隔年で開催されているテザー一級世界選手権では、いまだ日本チャンピオンは誕生していません。日本人初のワールドチャンプを目指し、1年間のワールドキャンペーンをおこなう、なんていうのも魅力的です。興味のある方は、日本テザー協会へ。



左) レース前日には 2011 年ワールドチャンプ、ポール・リッジウェイ選手 (AUS) による講習会がおこなわれました。オーストラリアからプレワールドに 3 艇が参加。海面だけでなく宿の下見等、プレワールドを満喫していました。

右) プレワールドには 3 艇の親子チームが出場しました。親子で乗れるのもテザーの魅力です。 photo by Junichi Hirai



左) 優勝の池田陽平／鷺尾大吾。コンビは未確定ながらもワールド上位を目指しています。

右) 準優勝の佐藤浩章／村岸恭明。2009 年和歌山ワールド 3 位のチームです。 photo by Junichi Hirai



左) 豪メルボルンから来日したリッジウェイ夫妻。チャーター艇でのヨットレース+日本観光を楽しんでいます。「来年は自分の船を持ってくるからもっと速いヨ！」と、二度目のワールドチャンプを狙っています。

右) ワールドが開催される海陽ヨットハーバーは来年へ向けて施設が改善・増築される計画があります。さらに便利になりそうです。 photo by Junichi Hirai



左) 優勝スピーチをする池田／鷺尾。 右) 求む、初日本人チャンプ！ photo by Junichi Hirai



来年、蒲郡で会いましょう！

テーザーワールドは7月30日～8月6日に開催されます。 photo by Junichi Hirai

テーザープレワールドの写真は、[バルクヘッドマガジン・フォトギャラリー](#)に公開しています。
ぜひ御覧ください。

プレワールド期間中、バルクヘッドマガジン編集部（平井様）が取材に来て下さり、素敵なレポートで応援して下さいました。この記事は7月26日にバルクヘッドマガジンに掲載されております。ニュースレター作成にあたり、記事・写真の転載許可をいただきました。
ありがとうございました。

Hello, Nice to meet you. My name is Daigo Washio. Excuse me, I want to do self-introduction and the race report of the pre-world of the Tasar. (はじめまして、こんにちは。私の名前は鷲尾大吾です。恐縮ではございますが、自己紹介とテーザーのプレワールドのレースレポートをしたいと思います。)

私は父の影響で、中学3年生(2003)の頃にヨットを始めました。以前は野球に没頭していましたが、「日本一にならないか」という甘い言葉に騙され、伊東ヨットジュニアでヨットを始めました。高校は地元古豪熱海高校ヨット部でFJに乗り、大学は日本大学に進学し、470に乗りセーリング技術を磨きました。その後は地元熱海でヨット部のコーチをしながら、自らの鍛錬そして母校ヨット部の組織運営をしてきました。

そんな私とテーザー級の出会いは高校生の頃です。KAZI誌で田中夫婦がワールドで3位になったことを知りました。当時から、私自身いつか世界大会で戦い優勝したいという思いがありました。「将来はテーザーに乗ろう」と決心した瞬間です。付かず離れずテーザーの記事を楽しみながら勉強している日々を過ごし、テーザーを知れば知るほどテーザーに乗りたいという思いが強くなりました。そんな中「テーザー級プレワールド」が開催されることを知り、これをキッカケに2017年の世界選手権を目指そうと決心しました。

船もない相方もない私は、まずテーザー協会にメールをし、関口真秀さんと知り合いました。「プレワールドに出たいです。」と懇願すると、いろいろな手配をしてくれ今回の相方池田陽平さんを紹介してくれました。池田さんとはプレワールドの前週に池田さんのホームポート稲毛で練習を一回行い、その後海陽セーリングカップで二回練習しました。テーザーに始めて乗った感想は、シンプル且つ乗りやすくさらに高度なセーリングが楽しめる、というものでした。まさにキングオブヨットレースということです。根強いテーザーセーラーに好かれるテーザーの魅力強く感じました。

長々自己紹介をさせてもらいましたがここからはテーザー級プレワールドのレポートをしたいと思います。7月23、24日、愛知県・豊田自動織機 海陽ヨットハーバーで「テーザー級プレワールド大会」が開催されました。プレワールドには35艇が出場し、日本を含めオーストラリアとオランダから3カ国でのテーザー級プレワールドになりました。

プレワールドの私の目標は『スキッパーを気持ちよく乗せること。』そして『表彰台に上がること。』でした。表彰台に上がるためには、スキッパーとのコミュニケーションが大切です。しかし、情報過多にしてもバランスは釣り合いません。いかにして集中しているスキッパーに必要な最低限の言葉かけで戦況を的確に伝えることが勝負の分れ目でした。我がチームはスキッパーのやることとクルーのやることが決まっていな中、レースをこなす度にお互いのやるべき事が決まっていき、お互いが少ない言葉かけで今やることを理解し相方の思いを察することができました。これこそが今レガッタの我々の勝因です。レースは生きているもの。レガッタ毎に、レース毎に、レグ毎に、その役割は少しずつ変化していたのです。やる事が決まっていなからこそ我々はオートマチックに対応できたのだと思います。そして自分が気持ちよく乗ること=相方を気持ちよく乗せること=優勝へと繋がったのだと思います。

今回のレースは私の10年分の思いをぶつけて最高の結果になりました。これからの1年間の一つ一つのレガッタが私たちの本当の勝負だと思います。ワールドまで1年。さらに成長した姿を見せていきたいと思ひます。

それでは皆さん来年も蒲郡で会いましょう。最後に今回携わった相方の池田さん、協会の関口さん、軽部ご夫妻、テーザーセーラーの皆様、愛知県連の皆様どうもありがとうございました。「安心して下さい。2017年のワールドチャンピオンは私が立候補します。」

ここ数年、子育てと仕事に追われヨットから離れていましたが、来年の蒲郡ワールドは自宅から通える絶好の場所で開催されるので、私のセーリング復活によい機会となりました。

今回は、先輩の植田親子チームと宮下親子チームを目標に、親子チームで競うことでコンペティブな要素を子供たちと一緒に愉しもうと思いました。

でも私は昔から練習嫌いなので、子供達と2~3度レースに出ながらヨット用語や動きを教えて、このプレワールドのレースに臨みました。

初日はお兄ちゃん（大智）、2日目は弟（帆風）がクルーを務めました。

性格が全く違う兄弟ということもあり、つつい期待し厳しくしてしまう長男と、パウデッキに寝転がる天真爛漫な次男に翻弄されながら、親子でヨットの楽しみ方を模索しています。

子供たちの感想を聞くと、素直な？ 不可解な？ 気持ちが返ってきました。

*長谷川 大智（たいち 10歳・小5）

「タック」と聞くとぼくは、まず足がすべらないかどうか確かめる。ほかにもジブセールを動かす用意などしなくてはと思うけど、真っ先にフネの中に水がたまりすぎてないのか確認する。

なぜかという、ぼくはタックをするときに、すべってしまい、失敗することが多いからだ。

そのため、失敗しないように水が多くないか確かめる。

蒲郡での第3レースで考えた。今までころんで失敗だったことが多くて「タック」と言われると、怖くて準備がおくれて失敗した。でも、すべらないか確認をすると怖くなくなり、成功する回数がふえました。しっかり確認して、自信を持つことは大切だと思いました。

*長谷川 帆風（ほかせ 8歳・小3）

「マークをまわるよ」と父が言った。

ぼくは、「何時の方こうにある？」と聞く。

すると「1時の方こう。」と父がこたえる。ぼくはマークがどこにあるのかわかった。

ぼくは、何時の方こうと言うことがとてもべんりだ。

たとえば「それとって。」

と言われたときに、「何時の方こう？」と聞くとどこにあるのかすぐに分かるからだ。

だからぼくは、しゅう中してレースができた。

だが、いいじゅん位がなかなかとれない。

だからつぎは、もっといしきしてレースをやりたい。

『2016 プレワールド』

芦屋フリート 植田 遼空さん

7月23日、24日蒲郡で開催されたプレワールドにお父さんと参加しました。お父さんとテザーのレースに出るのは、昨年江の島全日本以来でした。中学生になりクラブにも入って、テザーにも全然乗っていなかったのが、最初は出るつもりはなかったけど、お父さんから「宮下君や長谷川君も出るし、また一緒に出るように誘われた」と聞いて、参加してみたくなりました。

参加することにはしたけれど、蒲郡は風が強いと聞いていたので不安でした。でも、前に乗った時よりヨットの事について知れた気がします。また、蒲郡のハーバーはとても広々としていて気持ちが良かったです。前に比べヨットのレースを楽しく感じる事が出来たけど、もう少し前を走れたら良かったなと思います。

今回のレース参加はとても良い経験になったと思うので、来年のワールドにも出てみたいです。

* TOYOTA チームを代表して

谷 幸夫さん

今回で3回目のレースとなりましたが、まだまだ技術不足と感じました。沢山のテザー乗りの方々に優しく分かりやすく教えて頂き楽しいレースが出来ました。本来、私達はスナイプで活動しており、なかなかテザーに乗る事はありませんが1年後の世界に向けて、初日本人チャンプを目標に頑張っていきたいと思えます。



蒲郡ワールドロゴ入りのトートバック。

芦屋フリースの渡辺克充さんの奥様の手作り作品です。プレワールドの賞品としてご提供いただきました。ありがとうございました。世界にひとつ、の記念すべき一品です。

気持ち良さそう～♪

愛知県連からのご提案で、今大会ではスポーツマッサージのコーナーが設けられました。女子プロゴルファーのコンディショニング経験豊富な野口トレーナーの魔法の手に、身も心もほぐされる～。



プレワールドの振り返り

ワールド準備委員会 田中郁也

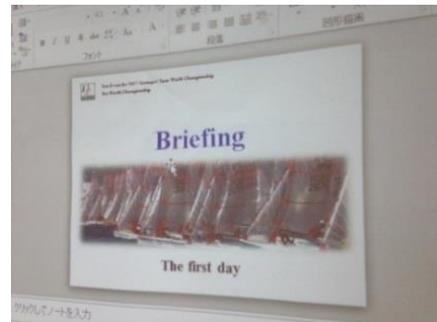
7月22-24日、蒲郡ワールドのテストイベントとしてプレワールドを開催しました。オーストラリア（メルボルン、ケアンズ）、オランダから7名の海外選手も含め、35チームが参加しました。

蒲郡、海陽ヨットハーバーにおいて、テザーの公式レガッタを開催するのは初めてのことでした。レース運営は愛知県ヨット連盟に行ってください、それ以外の準備は、蒲郡準備委員会と協会理事会のメンバーが愛知県連やヨットハーバーの方々と連絡をとりながら対応しました。以下主要な点について、今回の取組と課題などを振り返ります。

1. レース関係

(ブリーフィング)

2日間で6レースを計画。初日3レース、2日目2レースを実施しました。初日、2日目とも出艇前に岡田 IRO によるブリーフィングが行われ、パワーポイントを用いてレース運営やコンディション等について説明が行われました。ワールドでも毎日ブリーフィングが行われる見込みです。



(ターゲットタイム)

SIに記載されたとおり、ターゲットタイムは50分で設定されました。レグ長が確保されたため、トライアングルー上・下ー上フィニッシュのコース (TW3) で行われました。岡田 IRO が整理されたレガッタの記録は別表のとおりです。

(ゲートマーク)

大フリートでの上りと下りの艇の輻輳を回避する方策として、ゲートマークを試行しました。運営上のリスクや手順なども含めて、採用の可否を検討していきます。

(ゼネラルリコール)

ゼネラルリコールとなったスタートが多かったです。ブラックフラッグのペナルティの艇も出ました。個人的な考察ですが、今回のスタートラインはほぼニュートラル (本部船、アウターがイーブン) でした。このようなときには、艇を止める向きがルーズ (風に対して低い) になりがちで、少しでもセールを引くと意外に前に出てスタートラインに対し早く詰まってしまう。早いタイミングから位置取りの高い艇がいたり、艇の止める向きがルーズで前に出してしまう艇がいると、これに引っ張られたり、牽制するためにフリート全体が前に出ているように思います。ワールドではゼネラルリコールの連発は回避したいものです。

(プロテスト)

プロテストの件数が多く、時間を要しました。ワールドではインターナショナルジュリー (5名以上のジャッジ) の体制をとりますので、パネル数を増やすなど対策を検討します。プロテストの声かけとペナルティの履行による海上での決着が望ましいことは言うまでもありません。

2. 大会運営関係

(陸上スタッフ)

宮下久美さんと愛知県連の方に対応していただきました。ワールドでは艇数、選手数も大幅に増えます。出着艇の管理、掲示板の管理や書類の受理・処理、放送などによる行事進行、プロテストに関する事務、選手への支援、外部からの問合せ対応など、多くの業務が見込まれます。このため、5名程度のスタッフが必要だと考えており、ご協力いただけるボランティアを募ります。

(暑さ対策)

熱中症対策の注意喚起を行うとともに、非常用の飲料水を運営艇に積みました。海上での無風、微風時には運営艇による積極的な曳航を行う体制もとっていました。今回は幸いにもこれらの機会はありませんでしたが、本番ではもう一段階厳しい暑さを想定しておく必要があると考えています。大会会場での日陰の確保も課題で、テントの設置を検討しています。

大会終了後には選手を対象にアンケートが実施されました。ご協力をいただいた皆さん、ありがとうございました。蒲郡ワールドが充実した、楽しい大会となるよう、プレワールドでの経験を活かしていきたいと思えます。

冒頭に述べたように、プレワールドの大会運営は愛知県ヨット連盟との協同作業でした。準備の裏側を知っていただくため、レガッタ準備の進捗管理表を下記に掲載いたします。

Test Event for 2017 Gamagori Tasar World Championship レポートと本大会に向けての考察

2016, 07, 30
Race Officer 岡田 彰

(1) 前提

- ・前週実施の「海陽セーリングカップ」でのデータより、ターゲット・タイム50分にミートさせるため、スタートから1Mの所要時間を11分で想定。
- ・十分なレース・エリアが確保できる事より、レグ長の確保に向けてコースは全てTW3を選択。

(2) 諸元と実績

	Race1	Race2	Race3	Race4	Race5
スタート時の風向	185°	165°	165°	255°	225°
スタート時の風速	6.0Knt	9.0Knt	10.0Knt	7.0Knt	8.0Knt
RP座標	N34.47.562 E135.15.801	N34.47.562 E135.15.801	N34.47.562 E135.15.801	N34.47.758 E135.15.826	N34.47.758 E135.15.826
コース	TW3 (内角60°)				
スタート・ライン → RP	0.05nm	0.05nm	0.05nm	0.05nm	0.05nm
RP → 1M	0.70nm	0.60nm	0.60nm	0.50nm	0.60nm
スタート・ライン長	240m	240m	240m	240m	240m
レグの変更 1	3s → 1M + 0.05nm	-	-	3s → 1M 245°	3s → 1M 235°
レグの変更 2	3s/3p → F -0.10nm	-	-	-	-
フィニッシュ・ライン長	50m	50m	50m	50m	50m
スタート時刻	12:47:00	14:28:00	15:45:00	11:45:00	13:00:00
先頭艇フィニッシュ時刻	13:45:25	15:18:58	16:35:51	12:33:04	13:50:51
最終艇フィニッシュ時刻	13:52:45	15:27:58	16:43:50	12:39:47	13:58:09
先頭艇所要時間	0:58:25	0:50:58	0:50:51	0:48:04	0:50:51
ターゲット・タイム比	+ 0:08:25	+0:00:58	+0:00:51	-0:01:56	+0:00:51
最終艇所要時間	1:05:45	0:59:58	0:58:50	0:54:47	0:58:09
先頭艇/最終艇の差異	0:07:20	0:09:00	0:07:59	0:06:43	0:07:18
出走艇数	35	35	35	35	35

注：RP (Reference Point for Laying the course) マーク設置基準

(3) オフィシャル・ボート内訳

役割り/配置	仕様	コミッティ人員数
シグナル・ボート	30feet セーリング・クルーザー	4名(他にTasar協会ギャラリー2名が同乗)
1マーク兼 フィニッシュ・ピンボート	22feet オープンパワーボート	2名
2マーク兼 フィニッシュ・ボート	24feet キャビン付パワーボート	3名
3マーク/ゲート兼 スタート・ピンボート	5.8m リジッド・インフレーターブル・ボート	2名
プロテスト・ボート	5.0m リジッド・インフレーターブル・ボート	2名
メディア・ボート	5.8m リジッド・インフレーターブル・ボート	(Tasar協会1名 + メディア1名)

(4) コースTW3でのオペレーション

- ① RP: シグナル・ボートが設定
- ② スタート・ライン: シグナル・ボートはRP座標を基に位置設定
スタート・ピンはシグナル・ボート座標とレーザー・レンジ・ファインダーを併用して位置設定
- ③ 1マーク: RP座標を基に、1マーク兼フィニッシュ・ピンボートが設置
全艇が2回目の1マークを通過後、1マーク兼フィニッシュ・ピンボートが揚収
- ④ 2マーク: RP座標を基に、2マーク兼フィニッシュ・ボートが設置
全艇が2マークを通過後、2マーク兼フィニッシュ・ボートが揚収
- ⑤ 3sマーク: スタート・ラインがクローズ後(スタート信号4分後)、RP座標を基に3マーク/ゲート兼 スタート・ピンボートが設置
- ⑥ 3pマーク: 全艇が3sマークを通過後、コンパスとレーザー・レンジファインダーを併用して3マーク/ゲート兼 スタート・ピンボートが設置
全艇が3s/3pを通過後、3sマークとともに3マーク/ゲート兼 スタート・ピンボートが揚収
- ⑦ フィニッシュ・ライン: 1マーク揚収後、2マーク兼フィニッシュ・ボートと1マーク兼フィニッシュ・ピンボートにて設定

(5) Test Eventでの考察と本大会への検討

- ・1Rにおいて1Mまでの所要時間が当初計画どおり11分+αであったものの、フリーのスピードが予測以上に遅く、ターゲット・タイムに対し逸脱。前週と比較してチョッピーな波によるものと推測、2R目よりテンプレートを修正することにより対応。
- ・スタート・ライン長はWorld Sailingスタンダードに基づき240mで設定した。パイアス、ライン長とも問題はなかったが、1R、2Rにおいてゼネラル・リコールが発生。スタート前のフリートの観察では、① そもそも位置取りが悪い(ラインまでのフリー・ウォーター不足) ② 艇を止めておくことが出来ない ③ 潮汐の影響(中潮ではあるが、スタート時は出汐)によるものと判断。いずれも2回目のスタートより、規則30.3を適用した。この規模のフリートでのゼネラル・リコール多発にあたって、本大会での対応検討が必要。
- ・本大会でのコースは、① 十分なエリアが確保できる ② フリートが大きくなるとスタート・ライン長が伸長、1Mまでのレグがいびつとなることより、TW3のみとすべき。(スタート・ラインを下げると、2回目、3回目のクローズ・ホールドのレグ長が短くなり戦略的なコース選択幅が狭められるため採用すべきではないと判断)
- ・日本テザー協会が要望している「本大会でのシングル・フリートでの同時スタート」は、前出の理由によりレース運営として弊害が予想される。100艇参加として680mのスタート・ライン長(World Sailingスタンダード)は、中点にコミッティ・ボートを配置したとしても、円滑なレース運営が制限されるとともに、コース・フィギュアがいびつなものとなる。運営サイトとしては、1フリート50艇程度を上限として要望する。(予選シリーズ+ゴールド・フリート、シルバー・フリートによる決勝シリーズ)
- ・フィニッシュ・ウィンドウは10分で設定したが、最大でも2Rの9分で収まり接触する艇はなかった。本大会ではフリート規模を考慮しても、最大15分で問題無いと判断。
- ・シグナル・ボート1艇とマーク・ボート(含むピン・ボート)3艇の編成としたが、運用に問題はなかった。本大会でも艇数及びコミッティ人員等の基幹は同一で対応可能と判断。
- ・第2章に関連するプロテストが想像以上に多かった。(昨今のレガッタとしては稀有)本大会でのインターナショナル・ジュリーの編成ではジュリー・メンバーとともに、ジュリー・セクレタリの編成に考慮が必要。
- ・主催団体が発行するNORに開会式、閉会式等のセレモニーのスケジュールを記載することが必要。また、各日の予告信号予定時刻に対応した、ディリー・フリーフィングをスケジュール化して織り込みを依頼する計画。
- ・本大会での各日の予告信号予定時刻は、① 午後よりシーブリーズが期待 ② ハーバー営業時間が19:00まで等より、12:00を提案。
- ・本大会では特に海外からの選手に対するヘルプデスクの設置が必要。(本件は、日本テザー協会での対応をお願いしたい)
- ・愛知県連側で試行したスポーツ・マッサージは予想以上に好評だった。本大会では① 大会期間が長く、選手の疲労が予測 ② 日々のスケジュールに余裕があることより、更にニーズが拡大することが予測される。今回は試行の意味合いより、ボランティア・スタッフとして参加、必要経費は愛知県ヨット連盟が負担したが、本大会で導入するのであれば、大会費用として予算化をお願いしたい。

(海陽ヨットハーバー内での営利活動には制限があるので、検討が必要)

以上

テザープレワールド 練習会報告

2016年7月28日
村岸

(1) スケジュール、実施内容

開催日：2016年7月22日

時間	内容
12:30	・ブリーフィング
13:00	・各チーム出艇 ・各艇帆走練習
13:50～	・スタート練習 ★5分周期で4回実施
14:20～15:40	・コース練習 ★1レース約20分×3本 ★コース 上ーサイドー下ー上ー下 回り込みフィニッシュ
16:00	・着艇
17:00～17:40	・練習会の振り返り ★ハーバーで、Ridgeway、Peter Ellis の艇を囲んで実施 ★Ridgeway、Peter Ellisのチームに質問する形式とした

(2) 参加艇数：8艇

(3) 風の傾向

- ・風向：140°～150°
- ・風速：平均7～8m/s min5～6m/s、max10m/s
- ・波：高く、汚い(さまざまな方向からの波が入り乱れる感じ)
- ・振れ幅：10～15°の振れ幅で、同じような傾向で振れる

(4) 練習会の振り返り(質問会)の内容

- ・2011年イギリスワールドでチャンピオンとなった、Ridgeway夫妻チームへ質問する形式とした。
質問内容によって、Peter Ellisが回答する場面もあった。
これらはスキッパーであるPaul Ridgeway選手のコメントであり、チーム体重が150kgと重いことを前置きした上で行われた。
なお、Peter Ellisのチームは体重137kgとのこと。

<p>・蒲郡の波への対処について</p> <p>少し後ろに乗る、クルーとスキッパーが近づいて乗る。 艇のボトム真ん中から後ろを使って波乗せするイメージ。 Ridgeway選手のオーストラリアのホームウォーターも波が高い。</p>
<p>・アップウィンドでのメインセールトリム</p> <p>セールを出す局面になるとトラベラーシーティングのみ。 セールカーブを活かすため。バングは使わない。カニンガムを使う。 レバーがかえってこないように、抑える意味合いではバングを使う。 カニンガムは、風が上がってくればかなりタイトに使う。</p>
<p>・ダイヤモンドステイ</p> <p>調整が重要。 150kgのRidgewayチームは、マストのアイから5～10cm下、137kgのPeter Ellisのチームはアイの位置くらい。 いつも一緒に練習しているオーストラリアの130kgのチームは、アイの上5～10cmくらいを使っている。</p>
<p>・ジブセール</p> <p>クルーは真ん中と、下2の2つのポイントを使っている。リーダーは5つ出しまで使う。 5つ出す場面はほとんどない。3つ出しまでがほとんどのケース。</p>
<p>・サイドステイのテンション</p> <p>強風時に、サイドステイのテンションを緩めることはしない(軽量チームから緩めるかの質問に対して回答)。 軽量チームが強風時にどう対処すればよいかの質問に対して、Ridgeway選手は、とにかくビールを飲んでたくさん食えと言っていた(すみません、冗談です)。 Peter Ellis選手は、とにかくカニンガムを強く引くことが重要だと回答。</p>
<p>・リーチングにおけるジブリーダー</p> <p>リーチングでジブリーダーは、一番外のみを使う。どのようなコンディションでもそう。 迷わず外まで出す。</p>
<p>・ジブの高さ</p> <p>引き込んだ時にデッキにセールのボトムがつくくらい。</p>
<p>・その他</p> <p>ワールド地での前年の大会にRidgeway選手が毎回参加することに関して、 宿泊や移動、食事、海面など環境に慣れるためと説明。</p>

以上

スプリングレガッタ

相模湾テザーズスプリングレガッタ： 佐藤／村岸、5連覇達成！

4月23日、24日の春の相模湾で、テザー級の公式レース「テザーズスプリングレガッタ」が開催され、全国から28艇がエントリーしました。（レポート・写真／日本テザー協会）

レース初日は、微風の中、第1レースがスタート。トップホーンを鳴らしたのは、今年度より470クラスからテザーにコンバートした大橋・中澤組。2位は、軽部・関根組、3位には、佐藤・村岸組が入りました。



優勝の佐藤浩章／村岸恭明（江の島）。テザーズスプリングレガッタ5連覇を決めました。

以降、風が徐々に上がり、平均風速6～7メートルの中で、残り2レースをおこない、初日は予定通り3レースを実施しました。この時点で、佐藤・村岸組が2、3レース目をトップフィニッシュし、本大会5連覇の意気込みを感じるレース運びを見せました。

2日目は、朝から北からの強風により、しばらく陸上待機してから各艇が出艇。予定通り全3レースを実施しました。予報では、風軸が右（東）へシフトし、風が弱くなる内容でしたが、4レース、5レースともに平均風速9～10メートルオーバーで、その上、右に左に大きくシフトする難しいコンディ

ションとなりました。とはいえ、安定した基本動作と、集中力を欠かさず、いち早くシフトを捕らえた艇がレースを支配し、レース成績の上位陣はほぼ変わりません。

2日間が終わって、1レース目以外オールトップを取った佐藤・村岸組が、圧倒的な強さで本大会5連覇を達成しました。

次の公式レースは、7月10日に芦屋で開催される西日本選手権です。さらにその後には、7月16～18日に蒲郡で開催される海陽セーリングカップ（テザークラス）、7月23、24日にはお待ちかねのプレ・ワールド（蒲郡）を予定しています。

最近は、ワールドをめざした新チームの参入が目立ち、非常に盛りあがっています。2017年のワールドをめざしたい方々は、船の調達をお早めに！なお、2016年度のレース日程は以下でご確認いただけます。

<http://tasarjapan.org/index.php/events/schedule>

また、日本テザー協会では、練習会等の強化策に加え、レースでのチャーター艇紹介も行っています。テザーのレースに出てみたいという方は、日本テザー協会のホームページからお気軽にお問い合わせください。ウェブサイトにはテザー初心者の方への様々なガイドを掲載しています。ご関心のある方はぜひご一読ください。

<http://tasarjapan.org/index.php/introduction/gettingstart>



2 位：軽部香・関根恒久（稲毛）



3 位：大橋太一／中澤大三四郎（江の島）

（4/27 BULKHEAD magazine 掲載）

西日本選手権

合計 120 歳超が 5 チーム出場！ 芦屋・テザー級西日本選手権開催

梅雨明けしていないことを忘れそうな夏らしい陽気となった 7 月 10 日、兵庫県立海洋体育館（芦屋マリンセンター）には、稲毛・葉山・江の島・琵琶湖・大阪北港、そして地元芦屋から 15 艇が集まり「テザー級西日本選手権」が開催されました。（レポート・写真／日本テザー協会）



今回のレースには、スキッパー・クルーの合計年齢が 120 歳を超えるスーパーグランドマスター（SGM）のペアが 5 組も集まり、熱い戦いを繰り広げました。6 月 18 日に開催した 30 周年記念パーティーで顔を合わせ、超ベテランのレース魂に火がついた結果のようです。また、男女ペアも 5 組集まり、老若男女が競い合うテザーらしいレースとなりました。

3 レースとも軽風～中風のコンディションの中、総合優勝は 3-3-5 位と固くまとめた本吉・安澤組でした。本吉・安澤組は合計年齢 140 歳で、SGM ク

ラスからの総合優勝となりました。

2 位は石川父娘ペア（櫻さんはこの日がスキッパーデビュー）、3 位は同じく男女ペアである池田・秋吉組でした。石川父娘ペアと池田・秋吉組は大阪北港フリートで普段から一緒に練習している間柄です。合計得点もトップの数も一緒でしたが、最終レースをトップで飾った石川父娘ペアが 2 位となりました。

次のレースは、7 月 16～18 日に蒲郡で開催される海陽セーリングカップ（テザー部門）です。また、翌週の 7 月 22～24 日にはプレワールドが同じく海陽ヨットハーバーで開催されます。



優勝の本吉・安澤組。合計年齢 140 歳！

（7/14 BULKHEAD magazine 掲載）



8月27～28日、テザーミッドサマーレガッタが福島県猪苗代湖で開催された志田浜オープンヨットレース（主催：郡山ヨットクラブ、福島ヨットクラブ）に参加する形で行われました。

会場の志田浜はキャンプ場で、テント持参で湖岸泊のチームもありました。期間中は地元ヨットクラブメンバーによるおもてなしで、朝ごはん、お昼にはカレーライス、おにぎり、フルーツなどが振舞われました。

優勝は稲毛Fの池田・須山組。最終レースのトップフィニッシュ直前の表情。湖水の透明感、伝わりますか。

初日は雨交じりの北西の微・軽風下で3レースが実施されました。初日トップは1-1-2とまとめた池田・秋吉組（大阪北港F）。大阪から約700kmのカートップ&ドライブでの参加です。フレの幅が大きく、右から、左からと先読みが難しいブローに対し、見事なコース取りでスコアをまとめました。



初日は雨まじりの曇天、磐梯山は望めませんでした。きっちり3レースできました。（右）総合2位 池田・秋吉

2日目には天候は回復し、磐梯山も姿を現しました。南東の強風でフレッシュウォーターのさわやかなスプレーとプレーニングを堪能しました。朝の出艇から第4レース途中まで、強いガストは20ノットあり、国内では久々の強風レースとなりました。強風⇒順風の2レースは、池田・須山組（稲毛F）が1-1をとりました。

賞品は米どころ福島を象徴する“お米（玄米）”。「自宅近くのコイン精米機、誰が使うのだろうかと思っていたが、まさか自分が使うことになろうとは……」（ある選手の弁）。



3人乗り、長谷川親子艇

特別賞“ヤングクルー賞”は浜名湖から参加で“沈”を経験した長谷川大智君（10）と長谷川帆風君（8）に賞状とカレーが贈られました。遠来賞は、兵庫県芦屋から参加の泉選手（大阪北港F）が受賞しました。

郡山ヨットクラブの保科会長をはじめ、地元の皆さん、オープンレースに参加の皆さんに暖かく迎えていただき、感謝申し上げます。来年も多くの参加を期待したいと思います。

（9/6 BULKHEAD magazine 掲載に一部が掲載されました）

8月28日～29日、テザーミッドサマーレガッタが久しぶりに猪苗代湖にて開催されました。参加は7艇と少ないのですが、気を抜くとアツと言う間に最下位になってしまう、そんな参加者ばかりで、気が抜けません！

私たち、池田（俊）・秋吉組は、前日に艇を降ろし艀装品のチェックをしましたが、何と！
ティラーとエクステンションを大阪（北港）に忘れて来たことに気が付き、目の前が真っ暗になりました。…が、郡山ヨットクラブの保科会長様の御配慮により、猪苗代でテザーに乗っていらっしゃる岩田様からお借りする事が出来、なんとかレースに参戦することが出来ました。本当に有難うございました。



このあとは温泉も堪能しました

第1日目は、天気予報通りにあいにくの雨模様。2745艇の関口さんが「上松君が車から出てこない！」と泣いていました。雨は次第に弱くなりましたが、降ったり止んだりの1日でした。少しですが風が吹き始め、皆さん艀装を開始。2748艇の野嶋さんはビニールカップを着て、快適にセーリングをしていました。

予定を少し遅れて、第1レースがスタートしました。テザークラスがまずスタートし、その5分後にオープンクラスがスタートします。スタートラインはイーブンの感じで、リコール艇無しのスタートでした。私たちの2669艇はジャストスタートが出来ず、やむなく左海面を走る事になりましたが、時折左から弱いブローが入ったことで、何とかスタートの失敗をカバーする事が出来ました。

1上マークのトップ回航は2880艇の池田（陽）・須山組。続いて2572艇の軽部・軽部組そして2719艇の石川・泉組。サイドマーク・1下マークまで池田（陽）・須山艇がレースを引っ張って行き、1下マーク回航後右海面に進みました。2上マークでは左海面に進んだ池田（俊）・秋吉組がトップ回航をし、続いての池田（陽）・須山組です。そして、池田（俊）・秋吉組が、池田（陽）・須山組を僅差で押さえてフィニッシュをしました。

第2レースの風は330度、1～2m。時には「無風？」と感じる事も…。スタートはスターボードでは出にくいラインでしたので、3艇がポートスタートをする位置取りをしていました。しかし、そう簡単にはポートでのスタートをさせてもらえませんでした。スタート後多くの艇がタックをし、ポートロングを先に走りました。

その中でスターボードを先に走った米本・野嶋組と池田（俊）・秋吉組が1上マークのトップ回航を争いましたが、有利なブローが入った池田（俊）・秋吉組が先行し、トップ回航する。2上マークは途中から風が弱くなり、ブローを早くつかんだ艇が前に出る様相になり、神経をすり減らすレースとなりました。

第3レース、風向は300度、風速は1.5m。スタートは、第2レースのスタートと同じ状態になり、スタートと同時にタックする艇や少し走ってからタックをする艇等…。少し走ってタックした艇は、タックすると1上マークは正面にありました。風が弱くなったため、コースは今までより短い設定になっていました。2上までは池田（俊）・秋吉組がトップを走っていたのですが、2上から2下のランニングのレグで、左からのブローが来る事を予測していた（！）2880艇の池田（陽）・須山組に抜き去られてしまいます。2880艇はそのままトップでフィニッシュとなりました。

夜は郡山ヨットクラブ主催のパーティーが開催され、艇種毎、地域毎の紹介が順次行われました。私たちも「テザークラス」として紹介され、各自、自己紹介をしました。テザーのレースでもフリート紹介がありますが、「テザーフリート」として紹介されたのでちょっと変な感じでした。が、楽しいパーティー

でした。パーティーの時に、池田陽平さんから「ミッドサマーの優勝カップは渡しません！」と挑戦状を頂きました。その言葉に、逞しさを感じました。

翌 29 日（日）のコンディションは前日とうって違って、強風です。出艇して直ぐにブローが入ります。段々ブローが強くなり風が上がり、白波が立って来ました。猪苗代湖は山に囲まれていて、強風でブローの強弱があるところが、2013 年のアメリカ・ゴージワールドのロケーションと似ているなど、少し懐かしく嬉しく思いました。しかし、そんな余韻にゆっくりひたっている余裕はありませんでした。艇を止めるとブローで沈をしそうで常に艇を動かしていました。

そんな状況でしたが、親子で参加していた 2657 艇の長谷川艇も出艇をしました。長谷川さんは強風大好きスキッパーなので出艇されたそうです。しかし、お子さん 2 人（大智君と帆風君）がクルーとして乗っていたとは言え、かなりの強風です。レースエリアに来るまでに完沈をしてしまい、ロアマストを逆バンドさせてしまったそうです。大智君と帆風君は、初めての完沈もレスキューボートも楽しかった、との事でした。将来が楽しみな兄弟セーラーが誕生したと思い、嬉しく思いました。表彰式では、「ヤングクルー賞」と副賞（レトルトカレー）をもらい、二人ともびっくりしていました。



さて、第 4 レース。スタート後、左右に別れて第一上マークを目指して走りだします。池田（陽）・須山組が終始レースを引っ張り、トップフィニッシュ。2 位には軽部夫妻が、強風の中フィニッシュしました。このレースで、2880 艇が総合順位トップに踊り出ました。第 5 レースも第 4 レースと同じ展開となりましたが、フィニッシュ直前で 3 位争いが激しくなり、団子状態でフィニッシュラインを切りました。

ハードなレースを終えて帰艇をしたら、温かいお味噌汁と御握り、カップヌードルが準備されていて、冷えた体が一気に温まりました。2880 艇の池田（陽）・須山組は、ミッドサマー 2 連覇です。1 レースがカットとなりましたが、なんと 2 位をカットするというカッコ良さでした。表彰式では副賞があり、1 位がお米（玄米）、2 位がレトルトカレー。「3 位の副賞が福神漬けだったらカレーセットが完成するなあ〜」と石川さんが言っていました。残念ながらそうではなくて、カレーセットの完成はできませんでした！



磐梯山をバックに記念撮影

最後になりましたが、郡山ヨットクラブの皆様、温かいおもてなしを有難うございました。この猪苗代湖志田浜オープンヨットレースは、今年で開催 6 回目ですが、第 10 回までは続けて行きます、との事でした。みなさんも参加してみませんか。



△蒲郡のいちおし?!【三河木綿】蒲郡は繊維の街。「三河木綿」は蒲郡の特産品のひとつです。しなやかで丈夫な生地。藍地に懐かしさを感じる色合いの三河縞がアクセント。このポーチ、とっても使いやすいです。△オリンピック・パラリンピックに沸いた今年の夏。テザークラスでもイベントがてんこ盛り。レターも特盛でお届けします。たくさんの想いや言葉が伝え切れていないのが残念。△猛暑・台風で悩まされた夏が過ぎ、ようやく涼しくなってきたばかりなのに、もう来年の夏が待ち遠しい？ ワールド開催まであと 10 か月ですよ〜（のり）

2016 テーザースプリングレガッタ

CUT 1 レース

2016.4.23,24 葉山

Entry No	SailNo	Skiper	Crew	Crew	Fleet	Class	第1レース			第2レース			第3レース			第4レース			第5レース			第6レース			合計	CUT	NET	順位
							着順	反則	得点	着順	反則	得点	着順	反則	得点	着順	反則	得点	着順	反則	得点	着順	反則	得点				
1	17	2862	佐藤 浩章	村岸 恭明	江ノ島	M	3		3	1		1	1		1	1		1	1		1	1		1	8	3	5	1
2	9	2572	軽部 香	関根 恒久	稲毛	M	2		2	3		3	3		3	8		8	2		2	9		9	27	9	18	2
3	5	2732	大橋 太一	中澤 大三郎	江ノ島		1		1	7		7	6		6	5		5	3		3	13		13	35	13	22	3
4	2	2765	田中 郁也	田中 紀子	稲毛	GM	11		11	2		2	2		2	3		3	5		5	12		12	35	12	23	4
5	8	2880	池田 陽平	須山 研吾	稲毛		5		5	8		8	7		7	4		4	4		4	11		11	39	11	28	5
6	24	2736	山村 太郎	森 龍哉	稲毛		8		8	5		5	13		13	2		2	9		9	5		5	42	13	29	6
7	22	2715	中村 賢一	小松 利英	葉山	M	19		19	4		4	11		11	7		7	7		7	10		10	58	19	39	7
8	6	2719	石川 光輝	泉 香月	大阪北港	M		DSQ	29	14		14	4		4	11		11	8		8	6		6	72	29	43	8
9	11	2866	渡辺 克充	中野 佳代子	芦屋	M	7		7	11		11	20		20	14		14	14		14	4		4	70	20	50	9
10	27	2396	山本 晴之	山本 玲子	葉山	M	14		14	6		6	9		9	12		12	12		12	23		23	76	23	53	10
11	13	2749	野口 優	杉田 智宏	稲毛	M	17		17	12		12	8		8	6		6	13		13	22		22	78	22	56	11
12	12	2809	石塚 恒志	蜂須賀 強	浜名湖	GM	4		4	23		23	27		27	13		13	11		11	8		8	86	27	59	12
13	1	2593	亀山 寛達	井上 敦	稲毛	M	13		13	21		21	18		18	10		10	6		6	16		16	84	21	63	13
14	3	2867	池田 俊則	秋吉 寿美子	大阪北港	GM	16		16	16		16	23		23	20		20	10		10	3		3	88	23	65	14
15	14	2745	関口 真秀	上松 慮生	江ノ島		6		6	13		13	17		17	21		21	18		18	18		18	93	21	72	15
16	20	2741	伊藤 一石	森島 裕太	江ノ島		10		10	15		15	14		14	15		15	21		21	21		21	96	21	75	16
17	7	2671	阪井 祐介	宮下 健	葉山	M	9		9	19		19	16		16	19		19	19		19	17		17	99	19	80	17
18	18	2821	戸室 宣房	堀之内 孝一	江ノ島	M	12		12	22		22	24		24	9		9	15		15	24		24	106	24	82	18
19	26	2748	米本 隆	藤井 孝明	葉山	M	20		20	9		9	25		25	17		17	20		20	19		19	110	25	85	19
20	10	2709	宮下 知之	宮下 颯	葉山		18		18	20		20	12		12		DNC	29		DNC	29	7		7	115	29	86	20
21	4	2764	中西 英貴	佐藤 和紀	芦屋	M	24		24	18		18	21		21	16		16	17		17	15		15	111	24	87	21
22	25	2575	室田 大輔	軽部 竜也	琵琶湖		22		22	24		24	26		26	18		18	22		22	2		2	114	26	88	22
23	21	2720	岡 誠	高松 慎吾	久礼 嘉伸	葉山	23		23	25		25	15		15		DNC	29	16		16	14		14	122	29	93	23
24	28	2761	山下 栄輝	小松 充	葉山	M	21		21	10		10	5		5		DNC	29		DNC	29		DNC	29	123	29	94	24
25	23	2730	宇佐美 重則	小田倉 里美	稲毛	GM	15		15	17		17	10		10		DNC	29		DNF	29		DNC	29	129	29	100	25
26	19	2738	武田 純	武田 朋美	三苦 稔尚	江ノ島	25		25	28		28	22		22	22		22	25		25	20		20	142	28	114	26
27	15	2808	石川 洋二	鬼塚 一浩	葉山	GM	26		26	27		27	19		19		DNC	29	23		23	25		25	149	29	120	27
28	16	2675	山崎 真一	野嶋 嘉昭	葉山	M	27		27	26		26	28		28	23		23	24		24	26		26	154	28	126	28

Test Event for 2017 Gamagori Tasar World Championship
"Pre-World Championship"

July 23-24, 2016
Kaiyoh Yacht Harbor

Sail No	Skipper	Crew	Crew	Class	Country	Fleet / Area	1R		2R		3R		4R		5R		6R		Tot Pt	Net Pt	Pos
							Order	Point													
2880	Yohei Ikeda	Daigo Washio			JPN	Inage	5	4	1	1	2	2	1	1	2	2			10	6	1
2862	Hiroaki Sato	Muragishi Yasuaki		M	JPN	Enoshima	BFD	36	2	2	3	3	9	8	1	1			50	14	2
2572	Paul Ridgeway	Bronwyn Ridgeway		SGM	AUS	Sandringham Yacht Club	3	2	7	7	5	36	5	5	4	4			54	18	3
2732	Taichi Oohashi	Daisaburo Nakazawa			JPN	Enoshima	4	3	5	5	10	9	4	4	8	8			29	20	4
2807	Akinori Yamashita	Yukio Tani		M	JPN	Chubu	9	8	6	6	19	18	2	2	5	5			39	21	5
2765	Ikuya Tanaka	Noriko Tanaka		GM	JPN	Inage	23	21	11	11	1	1	12	11	3	3			47	26	6
2736	Taro Yamamura	Haruki Doi			JPN	Inage	7	6	3	3	6	5	16	14	22	21			49	28	7
2726	Tamotu Yasuhara	Yutaka Murayama		M	JPN	Inage	1	1	13	13	11	10	11	10	16	15			49	34	8
2768	Satoshi Kami	Saori Kami			JPN	Hayama	6	5	4	4	13	12	14	13	27	26			60	34	9
2205	Kelsey Ormsby	Alison Barrett			AUS	Tinaroo SC & Cairns YC	17	16	8	8	8	7	20	18	6	6			55	37	10
2208	Emiko Minamiya	Yoshiharu Cho		M	JPN	Ashiya	12	11	BFD	36	16	15	3	3	9	9			74	38	11
2942	Peter Ellis	Charlotte Ellis			AUS	Sandringham Yacht Club	15	14	12	12	7	6	8	7	21	20			59	39	12
298	Constantijn Udo	Kyoko Kono		GM	NED	YCRotterdam	8	7	20	20	12	11	10	9	13	12			59	39	13
2719	Mitsuteru Ishikawa	Katsuji Ishiguro		M	JPN	Osakahokko	BFD	36	19	19	15	14	6	6	11	10			85	49	14
2810	Hirotohsu Watanabe	Noriyoshi Nakashima	Hiroaki Sugiura		JPN	Chubu	16	15	15	15	4	4	23	21	18	17			72	51	15
2073	Yoshiaki Nagai	Koudai Morita			JPN	Chubu	14	13	BFD	36	9	8	25	23	14	13			93	57	16
2669	Toshinori Ikeda	Sumiko Akiyoshi		GM	JPN	Osakahokko	18	17	18	18	17	16	13	12	29	28			91	63	17
2593	Hironichi Kameyama	Atsushi Inoue		M	JPN	Inage	24	22	9	9	14	13	28	26	28	27			97	70	18
2705	Yasuhira Ueda	Riku Ueda	Noriko Ueda		JPN	Ashiya	10	9	22	22	28	27	17	15	25	24			97	70	19
2764	Hidetaka Nakanishi	Kazunori Sato		M	JPN	Ashiya	27	25	10	10	20	19	18	16	26	25			95	70	20
2861	Norihiro Miwa	Hiroyuki Nakayama			JPN	Osakahokko	26	24	24	24	27	26	21	19	7	7			100	74	21
2653	Yukio Tada	Junichiro Kutomi		SGM	JPN	Osakahokko	20	18	16	16	23	22	22	20	UFD	36			112	76	22
2707	Tsuneshi Ishizuka	Kazuki Kunitake		GM	JPN	Hamanako	13	12	14	14	25	24	29	27	33	32			109	77	23
2396	Haruyuki Yamamoto	Reiko Yamamoto		M	JPN	Hayama	11	10	BFD	36	18	17	UFD	36	23	22			121	85	24
2730	Shigenori Usami	Satomi Odakura		GM	JPN	Inage	33	30	21	21	32	30	26	24	12	11			116	86	25
2738	Jun Takeda	Tomomi Takeda	Takashi Ueda	M	JPN	Enoshima	30	28	23	23	24	23	34	32	15	14			120	88	26
2709	Tomoyuki Miyashita	Soh Miyashita			JPN	Hayama	31	29	29	29	26	25	19	17	19	18			118	89	27
2866	Katsumi Watanabe	Kayoko Nakano		M	JPN	Ashiya	22	20	BFD	36	22	21	27	25	24	23			125	89	28
2739	Koji Nakagawa	Toshihide Komatsu		M	JPN	Hayama	28	26	17	17	21	20	33	31	34	33			127	94	29
2745	Mahoro Sekiguchi	Ryo Uematsu			JPN	Enoshima	21	19	25	25	UFD	36	15	36	20	19			135	99	30
2748	Takashi Yonemoto	Kazuhiro Onitsuka			JPN	Hayama	BFD	36	28	28	30	29	32	30	17	16			139	103	31
2657	Katsuhiro Hasegawa	Taichi Hasegawa	Hokaze Hasegawa		JPN	Hamanako	29	27	26	26	29	28	24	22	30	29			132	103	32
2706	Hiroyuki Nakamoto	Sumiko Ishimaru		GM	JPN	Hayama	25	23	27	27	34	32	31	29	32	31			142	110	33
2723	Masaru Takayama	Kunihiko Nagano		SGM	JPN	Biwako	34	36	BFD	36	35	33	30	28	31	30			163	127	34
2708	Yuji Ishihara	Takuma Okada	Keito Iwase		JPN	Gamagori	35	31	30	36	33	31	35	33	35	34			165	129	35

リリース

Date	23-Jul-16	23-Jul-16	23-Jul-16	24-Jul-16	24-Jul-16
Starting time	12:47:00	14:28:00	15:45:00	11:45:00	13:00:00
Finishing time	13:45:25	15:18:58	16:35:51	12:33:04	13:50:51
Race end time	13:52:45	15:27:58	16:43:50	12:39:47	13:58:09
Wind direction	185 °	165 °	165 °	255 °	225 °
Wind speed	6.0 knot	9.0 knot	10.0 knot	7.0 knot	8.0 knot

2016年度 テーザーミッドサマーレガッタ

2016 第6回志田浜オープンヨットレース 結果順位表 (テーザークラス)

2016年8月27~28日 猪苗代湖志田浜

Entry No	Sail No	フリート	乗員			クラス	第1レース		第2レース		第3レース		第4レース		第5レース		成績	
			スキッパー	クルー			着順	得点	着順	得点	着順	得点	着順	得点	着順	得点	得点	順位
5	2880	稲毛	池田 陽平	須山 研吾			2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	5	1
3	2669	大阪北港	池田 俊則	秋吉 寿美子		GM	1	1	1	1	2	2	3	3	5	5	7	2
2	2572	稲毛	軽部 香	軽部 竜也		M	4	4	3	3	5	5	2	2	2	2	11	3
1	2719	大阪北港	石川 光輝	泉 香月		M	3	3	4	4	4	4	4	4	4	4	15	4
8	2745	江の島	関口 真秀	上松 慮生			6	6	5	5	3	3	DNC	9	3	3	17	5
7	2748	葉山	米本 隆	野嶋 嘉昭		M	5	5	7	7	6	6	5	5	6	6	22	6
4	2657	浜名湖	長谷川 勝啓	長谷川 大智	長谷川 帆風		7	7	6	6	7	7	DNC	9	DNC	9	29	7
6	2575	葉山	伊藤 雄一郎	若林 諒			DNC	9	DNC	9	DNC	9	DNC	9	DNC	9	36	8
							風 向		310°		330°		300°		120°		120°	
							風 速 (m/s)		3		2		1.5		8		8	

委任状

(送付先: 事務局 植田 泰平 jta-information@tasarjapan.org または FAX: 0742-51-7365)

私は、2016 年度日本テニサー協会年次総会の議決権を下記の通り委任いたします。

年 月 日

受任者 氏名: _____ フリート: _____
(※上記受任者が当該年度の日本テニサー協会会員であり、本年度総会に出席することを事前にご確認願います)

委任者 住所・連絡先: _____

氏名: _____ ⑩ フリート: _____

日本テニサー協会 会長 田中郁也 殿